

1. 科目名 (単位数)	保育児童学概論 (2単位)	3. 科目番号	GEBS1106								
2. 授業担当教員	太田 節子										
4. 授業形態	講義、演習	5. 開講学期	春期								
6. 履修条件・他科目との関係											
7. 講義概要	<p>本科目では、人間の生涯発達の中での初期段階である乳幼児期について、その発達の様相を学び、子どもが育つことの本質を考えるとともに、子どもを育てることの意義について理解する。すなわち、子どもは人的環境をはじめ様々な環境とのかかわりのなかで育つが、特に「愛着と自立」の観点から考える。また、子どもは生活の中で育つことから、今日的生活環境の変化を背景として「育つ」「育てる」の関係も変化していることを踏まえ、子どもの発達のしかたの実情に基づいて、保育者に求められるあり方について考える。</p>										
8. 学習目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の子どもの生物学的な特徴を理解し、乳幼児期の愛着の重要性と自立への道筋を理解する。 2. 子どもの育ちの過程を成熟と保育的かかわりの相互作用として捉えることができる。 3. 子どもの内面とその表現の特徴を理解し、子どもの個性や主体性を育てる保育について考えることができる。 4. 子どもが育つ場（家庭、保育施設、地域社会など）の役割と連携や今日的課題について考えることができる。 										
9. アサインメント (宿題) 及びレポート課題	授業での学習状況に応じて、課題を課す。										
10. 教科書・参考書・教材	<p>【参考書】 厚生労働省『保育所保育指針解説』文部科学省『幼稚園教育要領解説』内閣府・文科省・厚労省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』 東京福祉大学編「保育児童福祉要説」中央法規</p>										
11. 成績評価の規準と評定の方法	<p>○成績評価の規準</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間の子どもの生物学的な特徴を理解し、乳幼児期の愛着の重要性と自立への道筋を理解し、説明できるか。 2. 子どもの育ちの過程を成熟と保育的かかわりの相互作用として捉えることができるか。 <p>○評定の方法</p> <p>授業への積極的参加度、日常の受講態度、レポート等を総合して評価する。</p> <table border="0"> <tr> <td>1 授業への積極的参加</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>2 期末試験（または期末レポート）</td> <td>総合点の40%</td> </tr> <tr> <td>3 課題レポート</td> <td>総合点の20%</td> </tr> <tr> <td>4 日常の学習状況</td> <td>総合点の20%</td> </tr> </table>			1 授業への積極的参加	総合点の20%	2 期末試験（または期末レポート）	総合点の40%	3 課題レポート	総合点の20%	4 日常の学習状況	総合点の20%
1 授業への積極的参加	総合点の20%										
2 期末試験（または期末レポート）	総合点の40%										
3 課題レポート	総合点の20%										
4 日常の学習状況	総合点の20%										
12. 受講生へのメッセージ	この科目は、皆さんが保育を勉強するにあたり最初に会える科目です。保育者になりたい、という夢を今後4年間の学習により実現するために、現在の保育に対する新鮮さ、好奇心、意欲、興味・関心を大切に持ち続けて授業に臨んで下さい。										
13. オフィスアワー	別途通知します。										
14. 授業展開及び授業内容											
講義日程	授業内容	学習課題									
第1回	授業の目的、内容、望まれる学習態度等の説明。各自の保育者志望の理由を確認する。	事前学習	保育者になりたいと思った理由を確認する。								
		事後学習	授業で説明した保育者になるために必要な学習態度を復習し、自己課題を考える。								
第2回	保育とは何かについて具体例から理解する。	事前学習	保育所保育指針第1章を読んでおく。								
		事後学習	保育の意味を復習し、理解する。								
第3回	「子ども」という存在について考察し、愛着の重要性と自立への道筋を理解する。	事前学習	「子ども」という存在の特徴を考えてくる。								
		事後学習	授業で行った「子ども」という存在の見方を広げ、深める。								
第4回	乳幼児期の重要性を理解する。	事前学習	自身の幼児期を振り返り、記憶している体験を呼び起こす。								
		事後学習	乳幼児期の重要性を自身の体験と重ねて考える。								
第5回	「発達とは何かについて理解する。	事前学習	「発達の定義」について調べておく。								
		事後学習	「発達の原理」について復習する。								
第6回	乳幼児の発達の姿を観察する意義を学び、保育施設の役割を理解する。	事前学習	乳幼児の発達の個人差について調べておく。								
		事後学習	乳幼児の発達に即した対応の重要性を復習する。								
第7回	乳幼児への観察をもとに、発達過程と個々に応じた対応の重要性を理解し、保育環境について知識を深める。	事前学習	現場を観察するために必要な準備と心構えを確認する。								
		事後学習	観察学習を振り返り、子どもの発達過程について発見した事柄を記述する。現場の乳幼児を観察し、乳幼児への理解を深める。								
第8回	乳幼児にとって望ましい環境とは何かを、現場の観察をもとに考察し、議論し、理解を深める。	事前学習	保育環境にはどのようなものがあるのか現場観察をもとに考察する。								
		事後学習	子どものために望ましい環境とは何かを復習する。								
第9回	子どもの育ちの姿① 0歳児	事前学習	0歳児の特徴をまとめておく。								
		事後学習	0歳児の特徴を復習する。								

第10回	子どもの育ちの姿② 1、2歳児	事前学習	1、2歳児の特徴をまとめておく。
		事後学習	1、2歳児の特徴を復習する。
第11回	子どもの育ちの姿③ 3歳児	事前学習	3歳児の特徴をまとめておく。
		事後学習	3歳児の特徴を復習する。
第12回	子どもの育ちの姿④ 4、5歳児	事前学習	4、5歳児の特徴をまとめておく。
		事後学習	4、5歳児の特徴を復習する。
第13回	子どもが育つ場 家庭と保育施設	事前学習	自身の家庭での育ちを振り返る。
		事後学習	家庭と保育施設の連携の重要性を復習する。
第14回	子どもが育つ場 地域と保育施設	事前学習	自身の地域のなかでの育ちを振り返る。
		事後学習	地域と保育施設の連携の重要性を復習する。
第15回	授業のまとめ	事前学習	今までの授業についての質問事項を拾い出しておく。
		事後学習	今までの授業について振り返り、まとめる。
15. 実務経験を有する教員特記事項	幼稚園での教諭や主任、音楽学校の幼児教育科としての勤務経験を活かし、「7」に示す講義概要に則した講義を行う。		